

地域課題の解決に向けた取組

「盛土地拵」による下刈の省略に向けて

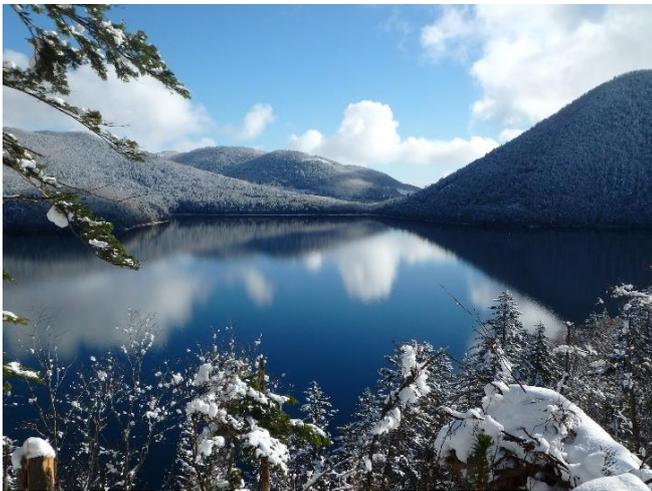
十勝西部森林管理署東大雪支署

※なお、この取組の詳細は、2月14日、15日に開催の北の国・森林づくり技術交流発表会においてポスター発表を行う予定です。

【はじめに】

十勝西部森林管理署東大雪支署は、十勝北部の上士幌町、新得町、鹿追町、士幌町にまたがる約15万haの国有林を管轄しています。

当支署管内は、日本百名山にも数えられるトムラウシ山や十勝岳のほか、ニペソツ山、石狩岳など北海道を代表する山々に囲まれた地域で、亜寒帯性針広混交林の広がる日本でも有数の森林地帯です。また、大雪山国立公園をはじめ、保護林、緑の回廊、レクリエーションの森など、多様な森林を広く有し、恵まれた自然の中では貴重な野生動物も多くみられます。



然別湖周辺の然別自然休養林は、全国に93箇所設定されている「日本美しい森 お薦め国有林」の一つになっています。

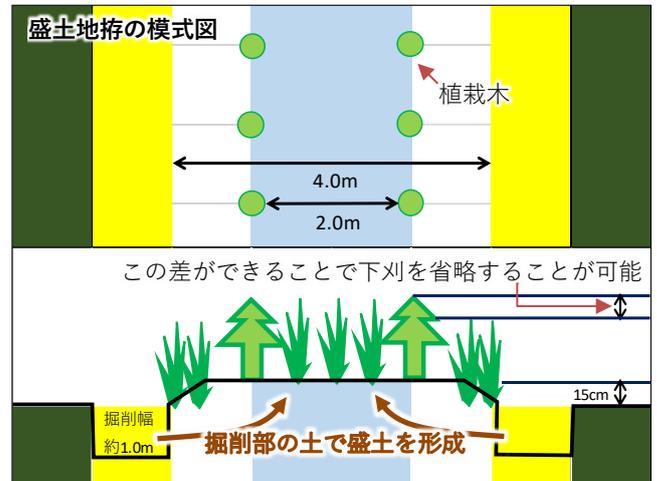
【労働負荷が高い造林作業】

管内では、人工林が間伐期から主伐期へ移行していることから、主伐量が増加し、これに伴って地拵・植栽・下刈の実施面積も増えると見込まれています。このような中、特に下刈は、コスト負担のみならず、炎天下での作業が多く労働負荷が強いため、その軽労化・効率化が担い手確保の観点からも急を要する課題となっています。

【課題解決への取組】

こうしたことから、当支署では、令和5年度から地域に適した造林作業の軽労化・効率化、下刈りの省略によるコスト削減に向け、「盛土地拵」の実証地の設定を行いました。

盛土地拵の方法は模式図のとおりです。下層植生のクマイザサ等の根茎を大型機械により除去したのち、苗を植える場所に高さ15cmの盛土を行います。盛土を行うことにより、盛土上の植栽木と発生する下層植生の高低差を確保するとともに、両脇の掘削により新たな笹の根茎の侵入や繁殖を抑制することで、下刈の省略を図ります。



盛土地拵の実施後の様子 杭の位置に苗木を植栽します。



※地拵は、植栽を行う前に、作業の支障になる下草などの整理や整地を行う作業です。

【今後の取組】

来年度は、設定した調査実証地においてデータの収集を行い、その結果を用いて地域の民有林への普及を進めていきたいと考えています。